

- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日:H16.11.7
- 構成員数:31人
- 全体構想作成日:H18.3.31
- 実施計画作成日:H18.10.30
(R2.3月現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会

再生
目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

【事務局】

730-8511
広島市中区基町10-52
広島県自然環境課
野生生物グループ内
電話:082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものである貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

活動報告

令和2年度 自然再生協議会全国大会(オンライン開催)

【報告者】広島県自然環境課 村田博史

毎年、秋に開催されている自然再生協議会全国大会ですが、今年度はコロナ禍で日程が延期されていましたが最終的に全国大会初のオンライン開催(R3.2.16)となりました。初めての試みであったため主催者側も大変苦労されたようですが、会議はZOOMを使い、併せてYouTubeによるLIVE配信による開催となりました。

午前の部は、これまでの全国大会で各自然再生協議会の共通の課題として、軟弱な財政基盤が取り上げられていたことから、日本ファンドレイジング理事の山元圭太氏から「持続可能な財源基盤～ファンドレイジングの本質と手法について～」と題して基調講演が行われました。内容は想像より遥かにレベルの高い話でしたが、分かりやすい説明により理解を深めることができました。

午後の部は、環境省からの情報提供、各協議会の紹介に続きコロナ禍での活動について、事前のアンケートを基に情報交換を行いました。どの協議会も大きな影響を受けており、今後の対応等について意見交換を行いました。

後半では、東京大学名誉教授 鷺谷いづみ氏による話題提供「生態系ステewardシップによる自然を活かした問題解決」からパネルディスカッションが行われ、生態系倫理等について理解を深めました。

会議に参加しての感想としては、我々八幡湿原自然再生協議会の活動(生物多様性の保全)も社会生活の多様な問題とリンクさせ、地域社会からの共感を呼ぶことにより、活動を活性化させることが重要だと思いました。

※なお、詳細は発表者や団体によりホームページに多数掲載されていますので、検索キーワードから調べてみてください。

【新型コロナウイルスが自然再生協議会に与えた影響について 事前アンケートから抜粋】

- コロナ禍で協議会の活動に影響がありましたか。
 - ・影響があった(n=22) 95.7%
 - ・影響はなかった(n=1) 4.3%
- どのような影響がありましたか。
 - ・行事の中止73.9% ・行事の延期52.2%
 - ・内容変更43.5% ・参加者の減少43.5%
 - ・感染症対策65.2% ・リモート開催17.4%
- 対応状況
 - ・書面やリモートによる会議開催、事業規模の縮小
 - ・ボランティア参加中止で協議会主体の負担増加
 - ・募金活動の中止、寄付者にPRできない。
 - ・都市部からの流入を歓迎しない雰囲気(現地) 等
- 懸念事項に対する今後の取り組み(コロナ禍)
 - ・メールやリモート会議の開催の推進や併用
 - ・地元住民等を中心とした参加促進(維持管理等)



霧ヶ谷湿原(自然再生事業地)での現地調査(R3.3.25)

これまで自然再生事業地での保全・維持管理は順応的管理を基本に「環境条件の整備を通じ自然の回復力で行う。(八幡湿原自然再生事業評価書H26.3)」としていましたが、昨今の異常気象や温暖化による降雪量の減少等も踏まえ、適応的に保全・維持管理を行うことを検討していく必要があるかもしれない。